

発行日 2024年3月23日 (土)

八王子学園八王子中学校・高等学校 広報誌

〒193-0931 東京都八王子市台町4-35-1

TEL. 042-623-3461(代) FAX.042-626-5646

URL. <https://www.hachioji.ed.jp>E-mail. info@hachioji.ed.jp

● 公式Instagram

行事や学校生活など
八王子学園に関する
様々な情報を発信しています。

鈴 懸

【Suzukake】

卒業生のみなさんへ

学校長 齋藤 智文

感染する学び ―卒業に寄せて―

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、お子様の晴れの姿にお喜びもひとしおのことと存じます。本校教職員を代表して、お祝い申し上げます。

卒業生の皆さんが本校で過ごした日々は、「新型コロナウイルス感染症」と「国際紛争」とともにあったと言ってもよいでしょう。それは国境を越えた人と人とのつながりを考えさせられたり、はるか遠い世界の出来事が日々の生活に影響を及ぼす現実を目の前に突き付けられたりする日々でもありました。教育現場もその影響から逃れられない中、互いの考えや個性を認め合いつつ、学校という共同生活の場を維持する中心となって活躍してきた3年生の皆さんを心から褒めたたえたいと思います。

多様性や相互理解の尊重が求められ、自然環境の保護や「構造的暴力」の解消が叫ばれる現代にあって、八王子学園が掲げる「人格を尊重しよう」「平和を心につちかおう」という学園モットーは、ますます大きな輝きを持つと信じています。

さて、「人間は一生勉強」と言いますが、これからも学ぶ気持ちを持ち続けるにはどうしたらよいのでしょうか。

『14歳からの社会学』（宮台真司著）という本の中には、学習動機には三つあると書かれています。

一つ目は「競争動機」（勝つ喜び）です。テストで友達より良い点数を取りたい、偏差値の高い大学に入りたいと思って勉強するのがこれです。

二つ目は、「理解動機」（わかる喜び）です。皆さんも「自分の力で問題が解けた」「自然や社会のしくみがわかった」という経験があることでしょうか。そうした時の充実感や知的好奇心が満たされた喜びをもとに、さらに次の学びに進もうという気持ちが生まれるというのがこれです。

これまでの日本の教育は、この二つに重点が置かれてきました。しかし、学びが最も身になる大切な動機は、三つ目の「感染動機」だと著者は言っています。

「感染動機」とは、「自分もこんなすごい人になりたい」という憧れです。その人のことが大好きで、その人に関わる本はすべて読みたいし、そばにいと「感染」してしまい、身振り手振りや話し方までいつの間にか似てしまう。そのようにして学んだことが、最も自分の血や肉になるのだと宮台氏は強調しています。

人は人によって教育され、初めて人になれると言います。教育は人による営みですので、一番重要なのは誰から学ぶかという事なのでしょう。心から尊敬できる、憧れの師から学ぶことができれば、どこで学ぶかということは大した問題ではなくなってしまうのかもしれませんが。これからの皆さんの学びの道の中で、私は皆さんがそうした憧れの人との出会いに恵まれることを願っています。そして、いつの日か次は皆さんが誰かの学びの「感染源」になってくれることを期待してやみません。





保健体育科：川野昭吾先生

～八王子学園八王子高等学校を退職するにあたって～

令和4年3月をもちまして、長年勤めて参りました八王子学園八王子高等学校を定年退職いたしました。思い起こせば昭和56年4月に日本体育大学を卒業したばかりの若輩者が体育教師として運よく専任教諭として採用され、それ以降41年という長きにわたり、お世話になって参りました。文字に致しますと簡単に41年と記載できますが、振り返れば途轍もなく長く感じる事もあり、紆余曲折、試行錯誤、山あり谷ありと様々な言葉が当てはまる41年間であったと言えます。

私は中学の頃より柔道を始め、それ以来、高校・大学と柔道一筋、そして就職も柔道絡みとあって、まさに柔道が私の人生そのものであると言っても過言ではありません。

また、高校の途中から大学4年間は柔道部の寮生活という特殊な世界で教育を受けていましたので、この八王子学園八王子高等学校に就職した時には社会常識も知識も乏しく、更に大学で神様扱いであった好待遇から数日経っただけの若輩者というおまけ付きで、その当時の私の教員としてご指導にあられた先生方には言葉では言い表せないような大変な思いとご苦労をお掛けしたという事は間違いありませんでした。その事は痛感致しております。

更に、最初から教員志望では無かった私でしたが、当時の大学の監督のここに行けという鶴の一声で、この八王子学園八王子高等学校に足を向けたわけでした。嫌です、やその気はありませんなど拒否の言葉を吐けるわけも無く、ただ『はい、わかりました』と答えるだけでした。そんな状態からのスタートでしたが、今となれば恩師でもあり、仲人でもある監督の先生のお言葉に感謝する次第です。それ以来、41年間にわたり多くの方々や生徒、そして保護者の皆さんや数多くの教え子達の深いご理解とご協力のお陰で何とか教員生活が全うできました。

記載いたしましたように教師としての資質は決してある方では無かった私が全うできましたのも、全て周りの方々の深いご理解やご協力によって成立したという事は紛れもない事実かと思えます。加えて、寛大な包容力で優しく見守って頂きました歴代の校長先生をはじめとする八王子学園自体の存在無くしても有り得ませんでした。本当に未熟でかつやんちゃで好き放題に突っ走って来た私でしたが、他の人より優れていたのはこの周りの方々の愛や支えに恵まれたという事であると退職してからも深く感じております。

本当に心より感謝致すと同時に今後の八王子学園の益々のご発展を祈念致しております。

※編集部注

川野先生は令和4年に専任教諭を定年退職され、現在は嘱託教員として勤務されています。本来であれば一昨年に退職のご挨拶文を掲載すべきところを、諸事情により今回の掲載となりましたことをお詫び致します。



数学科：岡田貴子先生

今日は2024年2月11日。八王子高校の入試2日目だ。試験監督をし、採点をする。合否会議が終わるのは、午後7時過ぎだ。毎年毎年やってきたことだが、今回私にとって最後の入試となった。30年以上続いた私の八王子高校での日々は、八王子高校の入試の日から始まった。1月に採用が決まり、「入試の手伝いをしてほしい」と頼まれた。当時は受験生が多くて本校の校舎だけでは教室が足らず、拓殖大学の教室も借りて筆記試験を行っていた。初めて会う先生たちと一緒に、初めて試験監督をし、とても緊張したのを覚えている。帰りは大雪だった。

八王子高校で過ごした30年以上の日々はあっという間だった。たくさん失敗をし、迷惑をかけてきた。周りの人たちに助けをもらい、なんとか続けることができた。突然母が亡くなったとき、あまりの悲しみにどうしていいかわからなかった。そのとき、クラスの生徒の笑顔、存在が私を癒してくれた。そうして少しずつ前を向くことができた。この1年は、行事の度に「ああこれで最後だな」と、嘔みしめるように時間を過ごした。

今まで多くの生徒と出逢うことができた。そして「卒業」という別れが必ず来た。先日卒業生の一人が会いに来てくれた。40歳を過ぎたという。在学中は勉強が嫌いで、進級の時にはハラハラさせられた。大学卒業後も順調ではなかった。仕事が続かなかった。悩み、相談に来た時があった。私は何てアドバイスしたのだろう。覚えていない。今、仕事が面白いという。やりがいがあるという。そんな自分を先生に見せたかったから来た、と。彼は文系学部出身だが、理系出身の人たちと仕事をし、責任ある立場にいるという。顔つきも体つきもたくましくなり、自信に満ちた表情をしていた。本当にうれしかった。

八王子高校で過ごした生徒たちの人生が豊かで、幸せであってほしいと願う。私も残りの人生を頑張ろう。



地歴科：内田喜一先生

～恩師に言われたこと～

私が高校生の時にとってもお世話になり、今でも非常に強く影響を受けている恩師のことを話させて頂きたいと思います。

この先生は、自分が高校の時に授業を受けた国語科の教員であり、クラブ顧問でもあったので、高校生活3年間で誰よりも接する機会の多い方でした。一度として褒められた記憶はなかったのですが、いろいろな意味でその後の自分の人生の生き方のようなものを教え導いてくれた気がします。ここでは、その恩師から頂いた忘れることのできない、そして今でも生きている言葉を紹介します。

まず一つ目は、「内田、お前は将来教師を目指せ。絶対向いてるぞ。」という言葉です。

高校生であった当時の自分には全く興味のないことだったので、特に気にもとめませんでした。大学で何となく教職課程の授業を取って、4年生の時にあまり気が乗らなかった教育実習に行くと、自分の卒業後の進路が180度変わってしまうくらいの、楽しさや充実感、やり甲斐を感じ、実習が終了して大学に戻ってから、急遽教員採用試験の勉強を始めたことを鮮明に覚えています。大学卒業後、高校時代のクラブOB会があり、久しぶりに恩師に会った時に、教員になったことを報告すると、こんなことを言われました。「内田、お前の教員生活はスタートしたばかりだけど、これからずーっと最後までヒラでいろ！いろいろな仕事があるなかで、年取ってもヒラでいられるのは教員だけだぞ。生徒のいる現場で最後までヒラだからな！」この言葉を恩師からもらって、事あるごとに思い出すことが多々ありました。自分の教員としての生き方が決まった気がしました。その後何度かクラブのOB会がある度に、恩師に会って必ず最初に私が言われる言葉が、「内田、まだヒラやってるかあ？」です。そして、その度に私の答えは「もちろんです。」

さらに、高校時代の恩師から言われた言葉で、現在も継続中のものを紹介します。高校の時に、クラブ活動でよくトレーニングルームを使用することが多く、マンツーマンで顧問である恩師から指導を受けることがありました。そんな時に「内田、おまえはなぜそんなに必死にトレーニングをするんだ？」と言われ、こう答えました。「強くなりたいからです。」それに対して恩師は、「じゃあ、一生身体を鍛えろ。大人になって俺のところに来た時に、お腹が出た状態は許さないぞ！」と言われたことを、今でもつい最近のことのように覚えてますし、これについては現在も継続中です。昨年、傘寿のお祝いの場で恩師に会った時も、おかげで視線を気にすることなくお話をすることができました。

「本当に、良かったあ。」

公民科：坂戸正昭先生

私は文章を書くのが嫌いだ。担任業務で嫌いなことといえば、指導要録や調査書の作成。これらの作業に比べたら保護者会や三者面談など苦ではない。学級日誌の所見は特に嫌いだ。「今日も寒かった。」とか、「今日も疲れた。」などのコメントに何を返せばよいのか。それよりも別の仕事をしたり、部活に行ったほうがはるかに有益に思っていた。いつの頃からか、所見欄のない日誌を作成して使っていた。指導要録、調査書、推薦書など、書く仕事はかなりある。これらの書類が必要不可欠であることはもちろんわかっているが、この仕事があれば生徒と接する時間がどれほど作れたらと思うたりもした。

私は文章を書くのが本当に嫌いだ。学年主任の時もそうだった。様々なトラブル対応よりも、問題ある生徒相手の指導よりも、進路ニュースや鈴懸へのメッセージ投稿を書くのが何よりも大変だ。ただ、生徒へメッセージを発信することはとても大切であることは認識している、というより重視していたつもりだ。生徒を講堂や体育館に集めたり、テレビを通じて些細なことでも褒めたりしてきた。私は決して文章による意思伝達を否定しているわけではない。ただ、好みや得意なことの違いだけである。私は顔と顔を合わせての意思疎通が好みだっただけの話である。

私は文章を書くのが昔から嫌いだった。嫌いになった理由は「字が下手」だからである。私は左利きである。食べる、書く、切る、ほとんどが左手使いだ。昔はワープロなどない。私の下手な字がそのまま人前にさらされるのが耐えられない。日本語は左から右へ線を引く。この時、右用にできていることを痛感する。特にチョークで書くときは本当にづらい。黒板に引っかかって押すことができないのである。そこで黒板だけは新人教員のころ右手に直した。今では黒板は右手、出席簿は左手で書いている。急いでいるときは右手に白チョーク、左手に黄色チョークなんて時もある。押し書きの難しさを逆に利用して左手を使えば簡単に点線が書けたりもする。生徒から黒板を遮らないように書き込むときも左手は役に立つ。こうなればベテラン教員だ。

そんなこんなで、あっという間に40年の教員生活が過ぎていった。定年までは秒読み状態だ。これで安心して定年を迎えられると思った矢先、この原稿依頼がきた。私は文章を書くのがやっぱり嫌いだったことを実感する。鈴懸の担当教員には「私は絶対書かないから！」と伝えた。伝えたにもかかわらず、念のため、こうして原稿を書いている自分が悲しい。

2023年度 中高3ヶ年 皆勤者・精勤者

【2024年3月13日現在】

◆ 中学 皆勤者 ◆

1組 丹野 灯
2組 宮原 悠 西脇 美海
渡邊 瑠佳 樋口 葉奈
3組 高倉 大空 長田 伊織
時久 達也 清水 美鈴
宮脇 健心 富崎 暖心
米村 和真 根岸 那奈
上田 百合香 野口 心優

◆ 中学 精勤者 ◆

1組 井上 悠輝 佐々木 亜実
桐山 裕一郎 佐藤 実季
大岩 愛怜 檀上 歩花
3組 小林 芽生 深澤 優空
田村 彩華

■ 高校 皆勤者 ■

1組 赤井 陽斗 7組 木代 直樹
佐藤 颯人 倉重 桃花
永井口 優 8組 百瀬 彩夏
三澤 英司 9組 中風 卓也
佐々木 夢乃 若林 大桔
井上 俊哉 阿部 千紘
土谷 優斗 川崎 啓子
伊藤 咲衣 10組 深井 颯
岡澤 真優 寺嶋 優李
田中 彩賀 11組 松尾 陽夏
服部 深央 12組 小嶋 武蔵
2組 黒田 桜子 滝澤 遼太
石川 新之助 村上 尋之助
高橋 優斗 渡部 楓
檜垣 蓮 入江 有咲陽
西尾 萌那
矢野 真稀
3組 遠藤 幹太
神保 克幸
檜崎 智己
丸子 一馬
沼田 かほ
4組 大場 このみ
5組 黒田 ありあ
6組 有泉 海澄
北澤 諒馬
後藤 拓磨
山上 沙羅
江畑 日那乃
星野 芙真奈

■ 高校 精勤者 ■

1組 渥美 颯介
野村 亮太
鈴木 恵里奈
3組 濱田 光希
甲斐 莉奈
4組 伊庭 ひすい
山内 愛
5組 濱野 真華
6組 金森 光憂
三背 恵
7組 榊原 聡太
中川 和優
白井 花奈
高木 麻帆
田中 優衣
松田 知佳
8組 齋藤 純平
佐藤 雄飛
香月 菜々子
松元 文菜
西川 和志
9組 大島 歩菜美
野口 二葉
間野 碧桜
10組 古川 陸
11組 織戸 勇真
12組 高橋 快周
比留間 智大
脇山 俊
小澤 結羽
山形 おうか



2023年度 卒業生 各種表彰

◆ 中学

【八王子学園賞】

【日本私立中学高等学校連合会会長賞】

【東京都中学校体育連盟会長賞】

【東京都私学財団 文化・スポーツ活動賞】

【功労賞】

囲 碁 将 棋 部
車 人 形 同 好 会
コンピュター科学部
吹 奏 楽 部
釣 り 研 究 会
ダ ン ス 部
男 子 サ ッ カ ー 部
男 子 硬 式 テ ニ ス 部
女 子 硬 式 テ ニ ス 部
女 子 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部
女 子 バ レ ー ボ ー ル 部
男 子 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部
男 子 バ レ ー ボ ー ル 部
茶 道 部
理 科 部
陸 上 部

2組 樋口 葉奈
3組 土田 七美
3組 時久 達也
3組 渡瀬 野々花
3組 中山 小豆

2組 渡邊 瑠佳
2組 浅田 七音
3組 高倉 大空
3組 土田 七美
2組 幡 美佐樹
2組 樋口 葉奈
3組 栗田 陽介
2組 綿引 啓祐
1組 福泉 吏埜
3組 根岸 那奈
3組 吉田 直生
2組 田中 琢翔
3組 柴田 大翔
3組 上田 百合香
3組 梶本 啓太
3組 時久 達也

■ 高校

【八王子学園賞】

【東京私立中学高等学校協会表彰賞】

【東京都知事賞】

【東京都私学財団賞】

奨励賞
文化・スポーツ活動賞
奉仕活動賞

【日本私立中学高等学校連合会表彰】

【体育優良生徒】

【体育優秀生徒】

【文化活動優良生徒】

【東京都高等学校体育連盟優秀選手】

バスケットボール専門部
柔道専門部
陸上競技専門部
水泳専門部

【東京都高等学校野球連盟優秀選手】

【東京都吹奏楽連盟賞】

【東京都青少年赤十字功労表彰】

1組 森屋 萌莉
12組 鈴木 莉緒
5組 黒田 ありあ
7組 伊藤 ななみ
10組 中村 咲良
2組 竹之内 美優妃
6組 時枝 優紗
9組 澤 響花
12組 木住野 幸大
9組 内藤 花音
12組 高原 一希
8組 渡久地 海樹
11組 紙原 菜々果
12組 笠木 憂生
12組 小嶋 武蔵
10組 中村 咲良
7組 伊藤 ななみ
9組 澤 響花
9組 内藤 花音
12組 鈴木 莉緒
12組 山田 晃志郎
8組 齋藤 純平
1組 服部 深央
2組 竹之内 美優妃

高校

1・2年生とも各学期の進路行事を予定通り行うことができました。

1年生は、1学期最初の進路ガイダンスで年間の大きな流れを確認し、文理選択が高校生活の大きな節目であることを確認しました。2学期は正しい文理選択をするための大学受験ガイダンスと文理選択ガイダンスを実施しました。3学期のクラス別ガイダンスでは大学受験に向けての1・2年次の心構えを学び、定期考査が学力の基盤を形成することを改めて共通の認識としました。定期考査でしっかりと結果を残し、力強い学力を身に付けて2年生に進んでほしいと思います。

2年生は志望校・受験科目を決定する学年です。そのための情報提供や準備として、進路指導室の使い方、3年選択科目、国公立大学、総合型・学校推薦型選抜などに関する各種ガイダンスを行ってきました。また、10月に進学激励会を実施し、生徒が普段の動画学習で活用しているスタディサブリの英語と数学の先生やベネッセのアドバイザーから大学受験に向けての心構えや、総合型・学校推薦型選抜のイロハを学びました。学習面では、進路実現に必要な実力を養成するために、10月の河合模試や1月の英検全員受験に焦点をあてた取り組みを行ってきました。生徒たちの頑張りもあり、河合模試では内進生も高入生も手ごたえを感じることができました。

1・2年生用イベントである生命科学や医学部（こちらは中学生も参加します）、看護医療栄養系のガイダンス・講演会を通して最前線で活躍されている大学の先生から専門的な話を聞くことができました。

生徒一人一人が、希望の進路実現のために最善の努力をして欲しいと思います。

中学

中学進路指導部では、学習指導とキャリア教育を中心に様々な取り組みを実施しています。1・2年生で学習習慣を確立するため、担任の先生による提出物管理が毎日のように行われています。3年生では、「主体的な学習」が求められ、1・2年生で学んだ学習方法や定期考査の学習計画を自ら工夫し、計画を立て、取り組むよう指導しています。また、近年では模試の対策にも力を入れており、教科担当の先生方を中心に授業の中でも模擬試験の過去問題に取り組むことが増えてきています。

キャリア教育では、主体的な進路選択のために各学年で高校や大学・職業について学んでいます。1年生は「身近な大人の職業調べ」を実施し、職業研究を行いました。2年生は「職業別講演会」と題して、現在社会で活躍する八王子高校の卒業生を招き、仕事とはなにか、職業に就くために今のうちからできることはなにか、などをお話頂きました。3年生は八王子ガイダンスを実施し、高校3年生の先輩や各分掌部長の先生方から、中学と高校の違いなど、来年度から始まる高校生活について様々なことを学びました。また、中央大学を訪問し、大学生の生の声を聴いて、「大学」がどんな場所なのか、学部の内容や大学生活等について知ることができました。

これらキャリア教育を通して、職業選択に対する主体的な姿勢だけでなく、その前提となる今後の学習に対しても、生徒たちが積極的に取り組むようになってほしいと考えています。



中学百人一首大会

1月17日（水）、中学校百人一首大会が開催されました。頑張って覚えた百人一首の知識を存分に生かすことができたのではないのでしょうか。今年度はグループリーグ形式、学年ごとに予選を行い、学年の代表同士が決勝戦で戦いました。予選から決勝まで熱い戦いが繰り広げられていました。優勝は大会史上初の1年生！大健闘でした。来年度の大会も楽しみです。



●チーム成績●

- 1位 1年1組Bチーム
- 2位 3年3組Eチーム
- 3位 2年3組Eチーム
- 3年3組Fチーム



中学・高校 入学試験終わる

中学・高校 2月1日～3日には中学校入試が、2月10日と11日には高校入試がそれぞれ行われ、無事終了しました。中高とも本校を第一志望と考える受験生が増加し、昨年以上に厳しい入試となりました。また今回の高校入試から、これまで全受験生に対して行っていた面接を、入試相談をしていないフリー受験生のみに行うと変更されました。試験時間中の換気に配慮しながら、今年は中高ともほぼコロナ禍前の条件での入試を行うことができました。



- 中学校入試出願者数 789名（3日間のべ人数）
- 高校入試出願者数 10日 1230名 / 11日 463名
- 入学予定者数 中学校 約100名
高 校 約500名(内進生を含む)

高校二次入試は3月5日に行われました。

ハチガクの思い出（高校3年）

MEMORIES OF SCHOOL LIFE



●高校3年1組 土谷 優斗

私の八王子学園での6年間はとても充実していた。個性豊かなクラスの仲間に囲まれ、楽しく過ごすことができました。ふざけ合い楽しい時間を過ごしたり、時には支え合い、協力しあってきました。その時間のおかげで深い絆ができ、かけがえのない思い出ができました。また互いに良い影響を与え合い共に成長できたことも強く感じました。

そして、先生の存在も生活する上で重要だと感じました。何事も否定せず、等身大の私を受け入れてくださり、安心して過ごすことができました。心配事がある時や失敗してしまった時など不安になるシーンは多々ありました。しかし、親身に相談に乗ってくれた先生のおかげでのびのびと成長することができました。最後に、6年間通わせてくれた親にも感謝したいです。

●高校3年2組 福元 来実

6年間、多くの人に支えられて今の自分があります。まず、受験期に進路について真剣に考えて教えてくださった先生方。困ったことがあると、休みの日でも教えてくださいました。たかが私一人の人生に一生懸命になって教えてくださった先生方には感謝してもしきれません。ありがとうございました。そして、友達。友達作りが不得意だった私に声をかけてくれて、今では悲しいこと嬉しいことをすべて共にしたいと思う存在ができたこと。生涯こんな友達は出来ないのではないかと思っています。みんなで過ごした大切な日々を絶対に忘れません。ありがとう！最後に、両親。いつも自分よりも来実の事を優先して考えてくれてありがとう。常に背中を押してくれて、上手いかなかった時は一緒に沢山泣いてくれて、両親がいなければきっとここまで頑張れていなかったです。本当にありがとう。6年間、過ごしている最中は辛いと思うことばかりでしたが、今思えばそれを乗り越える度に誰かに支えられていた事を思い出します。他の人たちより何度も八学までの道のりを歩いたからこそ、私にとってかけがえのない宝物がこの八学にはあります。

幸せな6年間で大切に胸にしまって、また新たに春から歩んでいきます。そして、少しずつお世話になった人達に恩返しをしたいと思います。6年間本当にありがとうございました。

●高校3年3組 遠藤 幹太

私の高校3年間はとても充実していた。3年前の中学生の私にとって高校生への存在は「青春」を象徴するものであったが、クラスに誰も知り合いがいなかった私は理想の「青春」を過ごせるか自信がなかった。しかし、部活と学校行事がこれらの不安を取り去ってくれた。私はバドミントン部に所属した。バドミントンは中学から続けていたため高校から始めた部員に積極的に教えることができ、すぐに仲を深めることができた。また、私は中学では先輩がいなかったため人生で初めての部活の先輩との関係は新鮮なものだった。体育祭は入学してすぐにあり、新たな仲間と協力したことで高校生になったということが一番認識できた。この後にも文化祭、球技大会、修学旅行など様々な行事を通していくうちにいつの間にか自分の理想の「青春」を過ごしていたことをこの文を書いている今改めて理解した。これから進学する大学でもこの経験を胸に自信をもって過ごしていきたい。

●高校3年4組 大場 このみ

私が一番印象に残っている八学の思い出は3年生の文化祭です。私のクラスの模擬店ではドリンクを売ることが決まり、みんなが受験勉強で忙しい中、放課後も合間を縫って企画や作業を進めてくれました。ドリンクは売れるのか？という一抹の不安を残したまま迎えた文化祭当日は、コロナ禍による制限が薄れた影響で大勢の人が訪れ、2日間とも完売することができました。その他にも体育館で行われるパフォーマンスや中夜祭も大いに盛り上がり、一番行事を満喫した2日間だったと思います。振り返れば、多くの人に支えられて、たくさんの楽しい思い出を作ってもらった高校生活だったと感じています。八学で素敵な方々にたくさん出会えて本当に幸せです！3年間、ありがとうございました！

●高校3年5組 中島 蓮太郎

元来手先も思考も不器用であった私は吹奏楽部に入部した頃の頃、先生や先輩方、同級生の仲間に迷惑を掛けることが多くあった。周りからの助言を理解し、生かすこともできず、ただ苦勞を重ねる日々であった。そんな中、私は一つの行動の指針を立てる。「誰にでも出来ることを懸命に取り組もう。」楽器の練習でも係の仕事でも、誰でも出来る簡単なことから真摯に取り組むことがとても大切なことであると考えたのだ。係の仕事でなくても気づいたことには進んで声を上げ、手を動かした。

そんな中、2年生の8月末に副部長の役職を頂くことになる。部をまとめる立場となった今、部員に繰り返し伝えていくことがある。「その時、その場において自分が果たすべき最大限の役割を見つけ、自分自身と周りのために行動を起こしてください。」役職や係の枠組みに捉われず、常に視野を広く持ち、仲間のために尽くすことが他人を助けるだけでなく、自分をも成長させるのだ。3月24日の定期演奏会に向け、私自身に出来ることを最大限取り組み、支えてくださったすべての方に演奏で感謝を届けたい。

●高校3年6組 伊藤 文音

私は、八王子高校の吹奏楽部に所属するために本学に入学しました。3年間の部活動は楽しいことだけではなく、乗り越えなければならぬ壁も多く、大変なこともありました。しかし、本番で良い演奏ができたときや、会場のお客さんも一緒に盛り上がってくれたとき、仲間と目標に向かって全力で頑張れたときなどにとても幸せを感じて、八学吹部に入ってよかったと思いました。また、学ぶことも多くありました。先生から、音楽面だけでなく行動面の注意もたくさん受ける中で、日頃の生活や、勉強面、部活中の行動も、全て音楽に繋がっていくのだと知りました。一つの物事だけに真剣に取り組むのではなく、何事にも真剣に取り組むことで、最終的に良い結果や成長に繋がると感じました。他にもコミュニケーションの大切さや、礼儀など様々なことを学ぶことができました。高校生活で学んだことをこの先も忘れず、自分の力にしていきたいです。



●高校3年7組 清澤 夏輝

私の高校3年間は、吹奏楽部での思い出がたくさん溢れています。「八学吹部」に入部して人数の多さや勢いに圧倒されたことを今でも覚えています。入部したての頃はたくさんの先輩や同期ができ、色々なことが新鮮でとても楽しかったです。しかし、楽しいことばかりではないことも実感しました。コンクールや大会に出場するためのメンバー決めや部員との衝突、勉強との両立などつらいこともありました。失敗や後悔もたくさんしました。その中で私は、「責任感」を学びました。部員が多いからこそ周りに与える影響を考えて1人1人責任を持つ、自分で選んで決めたことは責任を持ってやるなど、あたり前だけど様々な場面で責任が伴うことに気づきました。

これを書いている今は、受験を終えて3月末にある演奏会に向けて部活に励んでいます。3年間の感謝を忘れず、最後まで頑張ります。そして、部活で学んだたくさんのことを活かして大学でも頑張ります。

●高校3年8組 渡久地 海樹

高校生活を振り返ってみて、入学前の私では想像できないような様々な経験をし、また自分自身が成長できた3年間だったと思います。入学当初は友達できるかな、勉強頑張れるかな、部活と両立できるかな、など不安でいっぱいだったけれど、それは杞憂で、1年生の日帰り旅行から始まり、体育祭や文化祭、修学旅行など、クラスみんなや友達と一緒にいるととても楽しくて、色んな場所で沢山の思い出を作れたことがとても嬉しくて心に残っています。

部活では2年生の時に部長の役を任せてもらってから、勉強との両立や部員が楽しく参加できるようにするにはどうしたらいいのかなど悩む日々がありましたが、先生方や同じ部活の仲間が親身になって相談にのってくれたり、後輩がサポートしてくれたりとても助けられました。3年生の最後のコンクールでは賞を受賞することもでき、最高の思い出も作ることが出来ました。入学から卒業まで時間は本当にあっという間で、とても寂しいですが、この高校生活で得たものはこれからも忘れずに大切にしていきたいです。3年間、ありがとうございました。

●高校3年9組 間野 碧桜

私は写真部と美術部を兼部していました。その中で心に残っていることを紹介します。美術部に入って嬉しかったことは、憧れだった油絵に挑戦できたことです。小・中学校の頃に使っていた水彩画と違って上に塗り重ねて描いていく方法に始めはとても苦戦しましたが、何枚か描いていくうちに段々楽しんで描けるようになったことがとても嬉しかったです。

写真部で一番楽しかったのは体育祭でみんなが全力で競技に挑んでいる姿を写真に収めることです。学校行事で「写真部」と書かれた腕章を付けると、みんなの勇姿を間近で見ることができるので、毎年それを楽しみにしていました。体育祭の競技は動きが激しいので上手く撮れないことも多いですが、ばっちりピントの合ったいい写真が撮れたときはとてもテンションが上がりました。クラスのカメラ係としても写真を撮って回っているので、写真を見て喜んでもらえることも嬉しくなりました。

●高校3年10組 安部 心優

高校生活の中で1番運命を変えた出来事は部活動を辞めたことです。自分の気持ちが自分でコントロール出来なくなってしまっていた時でも暖かく接してくださった顧問の先生方・担任の先生、1番の味方でいてくれた両親、そしてこんな私にずっと寄り添って守ってくれた大好きな友達には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そんな友達と1から一緒に作りあげた高校生活最後の文化祭は1番の思い出です。何ヶ月も前から放課後に残って打ち合わせをしたり買い出しに行ったりしたことは大変でしたがそれ以上に楽しくて、苦しかったことを忘れられていました。文化祭委員でもなく、目標が消えてしまった私を沢山頼ってくれたことが嬉しくて、文化祭のことは今でも鮮明に覚えています。今は次の目標に向けて明るい気持ちで過ごせています。

高校を卒業しても大好きな友達と「あの頃楽しかったね!」と笑って話し合える関係でいられるように自分の夢に向かって頑張っていきたいです。

●高校3年11組 今村 銀乃丞

私が八王子高校で過ごした3年間は、他の高校では受けられない刺激を受け、それは今後の人生においても上書きされることのない充実した3年間でした。入学して間もなく、私は八王子高校の精到した設備に驚かされました。市民図書館顔負けの大きな図書室に自習室、2つの体育館に柔道場など、完璧な設備が自分自身のモチベーションになっていました。

更に朝早くや放課後には楽器達の美しい音色が聴こえたり、廊下を歩くと美術系のまるで写真のようなデッサンを見ることが出来、五感を通じて世界の広さを感じることが出来たことは、八王子高校でしか味わえない大きな財産だと思います。私が自由の学び舎で吸収した大きく、そして深いものを糧にし、次のステージでは何か新しいことに挑んでいこうと思っています。3年間の学びに感謝したいです。

●高校3年12組 渡部 楓

私はアスリートクラスに在籍していたということもあり勉強よりも部活動がメインの毎日を3年間送ってきました。決して勉強を疎かにしていたわけではありませんが部活で学ぶ事の方が多かったと感じています、その中でも私が最も大切な事だと思っていることが「周りを見て自分の頭で判断しながら行動する」ということです。

私は陸上部に所属していたのですが練習の準備や大会の荷積みなど、自分たちで行う作業が多くあり大会当日も様々な仕事があり、その一つ一つが誰かに指示されてから行うものではないので常に自分の頭で考えなくてはなりませんでした。

このような経験を経たからこそ自分自身で行動することを培うことが出来たのだと感じています。大学ではよりこの能力が試されていくと思いますが、改めて3年間を振り返り、八王子高校で学ぶことが出来て本当に良かったと心の底から感じています、とても楽しい毎日を過ごせました。

ハチガクの思い出(中学3年)

MEMORIES OF SCHOOL LIFE

●中学3年1組 橋本 耀

少し前までは、まだまだ中学生だと思って落ち着きなく生活していたが、もう高校生になると思うと、今までの生活が遠い昔のことのように感じる。1年生の頃は、元気が有り余っていて何事も夢中になって、はしゃいでいた。いろいろ沢山のことがあったが、初めての体育祭では、緊張したが全力で楽しんだ。文化祭の発表では、苦戦した部分もあったが、自分のスキルアップに繋がったと思う。

2年生でも、いつも好奇心旺盛でお祭り騒ぎの元気な毎日だった。将棋部では楽しい活動になったり、修学旅行だけで数十個も思い出ができたり。1年生の頃と引けを取らないほど、充実した日々だった。

3年生になると、落ち着いてきたように感じる。福島旅行や中学最後の体育祭や文化祭など、思い出づくしの日々だった。負けたらそこで試合終了になってしまうが、私はそうは思わない。勝敗にこだわること大事だが、私は、試合を楽しむことも大切な事だと思っている。つまり、「人生、楽しんだもの勝ちだー！」 と思っている。今後も楽しく生活が送れるよう頑張りたいと思う。

●中学3年2組 秋山 航輔

僕たちの中学3年間はコロナウイルスに振り回されていたと思う。顔の半分がマスクに覆われた中で入学し、ただでさえ不安だったが、更に不安に感じた。特に最初の1年間はみんなとたくさん関わりたいのにも拘わらず分散登校という形でクラスの約半分の人たちとしか関わることができなかった。合唱コンクールは1年生のときは各学年、2年生のときは学年閉鎖のため2年生だけとなり、何事もなければ、今年度は3年生は最初で最後の3学年揃っての合唱コンクールとなる。

ここまで聞くとそこまで充実した中学校生活には思えないが、実はそうでもない。ここでは書ききれないほどのたくさんの思い出があるが、中でも僕がこの3年間で一番楽しかったと感じた行事は中学2年生の修学旅行である。広島、京都、奈良を巡ったのだが、そこでの思い出は、鹿に襲われかけたある生徒を助けようとしたある先生に鹿がドロップキックをしたり、僕のブレザーを噛んだり、初めて触れ合った鹿であったが、とても面白く、楽しかった。また、2年生のときはクラスメイトに恵まれていた中で自由に班を決めることができ、最終日のタクシー研修もとても充実していた。

僕の中で中学校生活はコロナ禍でもたくさんの思い出に溢れた3年間であった。高校でもたくさんの思い出を作り「八学にいて良かった」と思えるような3年間にしたい。

●中学3年3組 小林 芽生

私がこの3年間で一番思い出に残っていることは、福島研修旅行です。私達はオーストラリア研修に行けなくなってしまい、代わりに福島のプリティッシュヒルズに行ってきました。ここでは実際に英国に行ったような感覚を味わうことができました。簡易的ではありますがチェックインなどの練習もすることができ、外国に行ったときに活用したいなと思いました。他にも夕食の際にはイギリスのテーブルマナーも学びました。前にも学校でテーブルマナー講習に行ったことがありますが、その時と少し違うマナーが出てきたりして、同じヨーロッパ内でも少しずつマナーが違うのだなと感じました。他にも自由時間には、施設内の色々な場所に行くことができ、遊びや食べ物などイギリスの色々な文化に触れることができました。そんな中で私が一番来てよかったなと思ったのは、夜に空を見上げたときです。プリティッシュヒルズは山の上にあり、東京では見られない綺麗な夜空を見ることができました。

これらの体験は中学3年間のほんの一欠片ですが、私の大切な思い出です。



中学合唱コンクール



3月13日(水)、J:COMホール八王子にて中学校合唱コンクールが行われました。それぞれの学年・クラスがこの日のために心をひとつにして練習した課題曲と自由曲の2曲を披露しました。

●ベストコンダクター賞：3年1組 佐々木 亜実

●ベストピアニスト賞：3年2組 田中 琢翔

●1年課題曲 最優秀賞：1組 ●2年課題曲 最優秀賞：2組

●3年課題曲 最優秀賞：3組

●自由曲 最優秀賞：3年2組・3年3組

●自由曲 優秀賞：3年1組 ●自由曲 優良賞：2年3組

高校2年合唱コンクール



3月5日(火)、本校講堂にて高校2年生音楽選択者による合唱コンクールが行われました。課題曲「虹」(森山 直太郎)と自由曲の2曲が披露され、講堂に力強く美しいハーモニーが響き渡りました。

●金賞：7・8組、11・12組

●銅賞：9・10組

●ベストコンダクター賞：1組 有松 優芽

●ベストピアニスト賞：5組 岡野 姫奈